

# 第一章活用事例

小学校五・六年生版「心たくましく」  
「あたたかい心で…」

p.16

## 中心資料

小学校読み物資料とその利用 平成四年三月 文部省  
「最後のおくり物」

### 【主題名】 人の心のあたたかさ

第五学年及び第六学年 2-(2)

「だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしよう。」

【ねらい】 だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。

《ねらいとする道徳的価値について》五・六年生の時期の児童は、相手の気持ちを考えることができるようになりますが、周りの目を気にして、親切な行為ができないこともあります。自分の経験を振り返らせて思いやりや親切の大切さをあらためて実感させながら、互いに助け合い支え合うために、まず自分が思いやりの心を持ち、誰に対しても親切にしようとする姿勢を身に付けさせることが大切です。

## 導入



「困っている人や苦しんでいる人を見て、助けてあげたいことはありますか。」

○これまでの体験を思い出させて道徳的価値への方向付けをしましょう。



「おくり物が届かなくなったとき、ロベーターはどのようないいことを思っただけでしょうか。」

○月謝がはらえなくなって、親切にしてくれた相手の立場や気持ちを思いやることなく、あせったりうらんだりする主人公の気持ちに気がさせましょう。

### 中心発問



「ジョルジュじいさんに付きそいが必要だと聞いて、ロベーターはどのようないいことを考えたでしょうか。」

○仕事のことや俳優になる夢のことを考えながらも、自分の体をこわしてまで「おくり物」を続けようとしてくれたジョルジュじいさんに、できる限りのことをしようと決意する主人公の心情に気がさせましょう。

《評価》 相手の立場に立って、困っている人に温かい心で接していることと決意した時の気持ちについて、考えることができたか。

## 展開



「手紙を読んだロベーターは、ジョルジュじいさんどのような言葉を伝えたかでしょうか。」

○手紙に込められたジョルジュじいさんの思いや、「何かを決意したかのように」の「決意」がどのようなものであったのかを想像させながら、主人公の心情に気がさせましょう。



「あなたはこれまで、だれにどのような親切を受けたかでしょうか。そしてその親切に、これからどのようなことをいけばよいでしょうか。」

○様々な経験を振り返らせながら、思いやりの心をもつことや親切にすることの大切さ、そしてそこに生まれる温かい心の交流に気がさせましょう。

○「心たくましく」p.16 「あたたかい心で…」を全員で読み、思いやりの心をもつことについて考えさせて、授業のまとめにするなどよいでしょう。

○説話として、教師自身が困ったときやつらかったときに親切にしてもらって助けられた経験を語りましょう。

## 板書例

### 最後のおくりもの

おくり物が届かなくなったとき、ロベーターはどのようなことを思っただけでしょうか。

- せっかくなのでここまでできたのに、くやしい。
- このままでは俳優になることができなくなってしまふ。
- おくってくれていた人に何かあったのだろうか。
- 自分はこれからどうすればいいのだろうか。

ジョルジュじいさんに付きそいが必要だと聞いて、ロベーターはどのようなことを考えたでしょうか。

- ・ 今、付きそいをして自分のできなくなる。
- ・ このまま病気が治らなければ、ぼくのゆめはどうなるのだろう。
- ・ ぼくでなくても、だれかがやるだろう。

### ロベーターの挿絵

- ・ ぼくのせいで病気になったのだ。
- ・ 今度は、ぼくができることをしよう。
- ・ 今、仕事をなくしてもかまわない。
- ・ どんなことをしても、病気を治してもらおう。
- ・ 何もいわずに、ぼくのために働いてくれてありがとう。

手紙を読んだロベーターは、ジョルジュじいさんどのような言葉を伝えたかでしょうか。

- こんなにぼくのことを考えてくれていたのだ。
- 本当のお父さんのようだ。
- どうしてもっと早く、気付けなかったのだろう。
- これからは、自分で働きながらジョルジュじいさんの分までゆめをかなえよう。

### 手紙を読むロベーターの挿絵

### 「あたたかい心で…」の言葉

《評価》 だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする気持ちをもつことができたか。